
2023年度 授業概要【文学研究科】

科目コード：61023

科目ナンバリング：GE52C01K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：英語コミュニケーション文化研究C(翻訳概論)(English Communication and Culture St

担当者：菅野 弘久

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：GE

関連資格：教職

AL要素：輪読活動 レポート指導

授業の概要： 日本の翻訳文化について、明治初頭から戦時中までの主要な翻訳論をもとに、とくにその歴史相に注目して考えます。

キーワード： 翻訳論, 文体, 異文化コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 明治時代からの主要な翻訳論について、その内容を時代の文化的影響(関係性)のなかで理解し、それを敷衍して説明できる。

評価方法： 授業内課題

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： それぞれの翻訳論の相違点と共通点を理解した上で、それらを現在の文化的状況から評価し、その内容を適切な文章で表現できる。

評価方法： 授業内課題

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、発展的学修によって得られた知見が提出課題の記述内容から認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や提出課題の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼その他

とくになし。

評価割合： とくになし。

授業計画： 第1回：日本の翻訳文化の歴史的前提

第2回：渡部温『伊蘇普物語』

第3回：坪内逍遙『自由太刀餘波鋭鋒』

第4回：森田思軒『翻譯の心得』

第5回：福澤諭吉『福澤全集緒言』

第6回：内村鑑三『外國語之研究』

第7回：上田敏『海潮音』序

第8回：二葉亭四迷「余が翻譯の標準」

第9回：高橋五郎『英文譯解法』

- 第10回: 森鷗外『即興詩人』時代と現時の翻譯
第11回: 岩野泡鳴『表象派の文学運動』譯者の序／例言
第12回: 萩原朔太郎『詩の翻譯の可能性』
第13回: 谷崎潤一郎『文章読本』西洋の文章と日本の文章
第14回: 野上豊一郎『翻譯論—翻譯の理論と實際』
第15回: 大山定一・吉川幸次郎『洛中書問』

使用テキスト: 柳父章ほか編『日本の翻譯論—アンソロジーと解題』(法政大学出版局, 2010).

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習では, シラバスを参照して, 授業で取り上げる翻譯論について概要をつかむ. 復習では, 言及されている作品・事項について確認し, 原典の理解を深める. 参考書として柳父章の一連の著作から, まずは『翻譯とはなにか—日本語と翻譯文化』(法政大学出版局, 1976年)と『近代日本語の思想—翻譯文体成立事情』(法政大学出版局, 2017年).

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので, まず学務部に連絡してください.

授業時間外の連絡手段: 随時IC-Mailにより対応しますが, 必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます.

留意事項: この授業は基本的に日本語で行いますが, 一部英語も使います.

科目コード: 61024 **科目ナンバリング:** GE52C02E **主な使用言語:** 日本語
授業名(英文): 英語コミュニケーション文化研究D(翻譯演習)(English Communication and Culture Studies)
担当者: 菅野 弘久

基本情報

年次: 1 **単位数:** 2 **授業形式:** 演習
曜時: 月曜4限 **履修可能学科・専攻:** GE
関連資格: 教職 **AL要素:** レポート指導

授業の概要: 翻譯とはどのような行為であり, またどのような知識と技術が必要となるかを, ロンドンについて書かれた文章(エッセイ)の翻譯を通して学びます.

キーワード: 翻譯, 直訳, 意訳, 文体, 語用論, ロンドン, イギリス文化

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 翻譯という視点から英語と日本語の特性を理解し, 英語から日本語へ翻譯する際の知識・技術を身につけることができる.

評価方法: 授業内課題 **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 日本語と英語の特性を理解した上で自然で等価的な翻譯ができる.

評価方法: 授業内課題 **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが, 発展的学修によって得られた知見が提出課題の記述内容から認められる場合には, 「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする.

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

評価対象とはしない.

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や提出課題の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

とくになし。

評価割合：とくになし。

授業計画： 第1回：翻訳実践(1)–Thomas De Quincy, “The Nation of London”(1)
第2回：翻訳実践(2)–Thomas De Quincy, “The Nation of London”(2)
第3回：翻訳実践(3)–Charles Lamb, “A Grand Fragment”(1)
第4回：翻訳実践(4)–Charles Lamb, “A Grand Fragment”(2)
第5回：翻訳実践(5)–Charles Dickens, “London Bridge at Midnight”(1)
第6回：翻訳実践(6)–Charles Dickens, “London Bridge at Midnight”(2)
第7回：翻訳実践(7)–Anthony Trollope, “Alone and Unhappy in London”(1)
第8回：翻訳実践(8)–Anthony Trollope, “Alone and Unhappy in London”(2)
第9回：翻訳実践(9)–Beatrix Potter, “In the National Gallery”
第10回：翻訳実践(10)–E.M. Foster, “Goblins in the Queen’s Hall”(1)
第11回：翻訳実践(11)–E.M. Foster, “Goblins in the Queen’s Hall”(2)
第12回：翻訳実践(12)–Virginia Woolf, “London; this Moment of June”(1)
第13回：翻訳実践(13)–Virginia Woolf, “London; this Moment of June”(2)
第14回：翻訳実践(14)–V.S. Naipaul, “Snow!”(1)
第15回：翻訳実践(15)–V.S. Naipaul, “Snow!”(2)

使用テキスト： Paul Bailey, ed., The Oxford Book of London (Oxford UP, 1995)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習では、シラバスを参照して指定された課題の試訳を準備する。復習では、授業内容をふまえて最終訳をまとめる。参考書として、柴田元幸『翻訳教室』(朝日新聞出版, 2013年), 山本史郎『翻訳の授業』(朝日新聞出版, 2020年)。その他の参考文献については、授業中に適宜紹介。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 随時IC-Mailにより対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。

留意事項： この授業は基本的に日本語で行いますが、一部英語も使います。

科目コード：61031 科目ナンバリング：GE51C05E 主な使用言語：日本語と英語

授業名(英文)：英語コミュニケーション言語研究B(形態論・統語論演)(English Communication and Lan

担当者：三輪 健太

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻：GE

関連資格：教職

AL要素：07. 発表

11. 討論

14. 輪読活動

17. 発問と回答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型・オンデマンド型併用)

本授業では、遠隔授業をIC-Teamsおよび音声通話アプリで行う「同時双方向型」と、その動画および音声ファイルを授業後にIC-Teams内で共有する「オンデマンド型」を併用します。できるだけスマートフォン以外の端末での視聴環境を整えておくことを推奨します。

チームコードは、UNIPAの掲示でお知らせしますので、受講前に登録しておいてください。

【授業内容】

本授業では、日本語統語論に関する書籍を精読する中で、統語論の基礎を学びます。両言語間の共通点や相違点を知ることで、英語に対する理解を深めます。ただ言語事実を知ることが目的とするのではなく、「なぜ」そのような事実が存在するかを考察することを目指します。

授業は、英文テキスト精読と、教員からの問いに対する議論の形式で行います。

キーワード： 日本語学、英語学、統語論、形態論

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 基本的な統語論の知識を有しており、英文にて統語論のテキストを理解することができる。

評価方法： 輪読

評価割合： 50%

プレゼンテーション

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 論理的に自身の考えを構築し、それを他者に伝えることができる。他者の主張に対する批判を適切に行うことができる。

評価方法： 輪読

評価割合： 50%

プレゼンテーション

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。授業内で扱った現象に関して、有益な質問・コメント等が認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度により周囲に迷惑が及ぶ場合、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

普段触れる言語表現の中に「なぜ？」と問える力を培います。楽しみながら、知的好奇心を刺激しましょう。

評価割合： 普段触れる言語表現の中に「なぜ」

授業計画： 第01回: オリエンテーション
第02回: NP/DP and PP
第03回: Discussion [1]
第04回: Unaccusativity
第05回: Quantifier Scope Where Do Subjects Come From?
第06回: Control and Raising
第07回: Head Movement
第08回: Topics on Sentence-Initial Phrases
第09回: Discussion [2]
第10回: Complex Predicates
第11回: Argument Extraction from DP
第12回: Non-Canonical Case Marking
第13回: Focusing on VP
第14回: Discussion [3]

第15回: まとめ

使用テキスト: Kishimoto, Hideki (2020) Analyzing Japanese Syntax – A Generative Perspective–, Hitsuji Shobo.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 各回で次回読む範囲を指定しますので、事前に訳しておき、要約をできるように準備しておくこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 随時対応します。連絡先は直接お伝えします。Teamsでも対応可能です。

留意事項: 1. 授業時は、必ず辞書(電子辞書可)を持参して下さい。
2. 本授業は、課題提出等をオンライン上で行ってまいります。また、講義のノートはオンライン上の資料をダウンロードしたファイルに、各自持参のデバイスで書き込んでもらうことを推奨しています。その方法については、初回の授業でお伝えします。

科目コード: 61034 **科目ナンバリング:** GE51C04K **主な使用言語:** 日本語と英語
授業名(英文): 英語コミュニケーション言語研究A(形態論・統語論概)(English Communication and Lan
担当者: 三輪 健太

基本情報

年次: 1	単位数: 2	授業形式: 講義
曜時: 金曜4限		履修可能学科・専攻: GE
関連資格: 教職		AL要素: 07. 発表 11. 討論 14. 輪読活動 17. 発問と回答

授業の概要: 本授業では、日本語統語論に関する書籍を精読する中で、統語論の基礎を学びます。両言語間の共通点や相違点を知ること、英語に対する理解を深めます。ただ言語事実を知ることが目的とするのではなく、「なぜ」そのような事实在存在するかを考察することを目指します。
授業は、英文テキスト精読と、教員からの問いに対する議論の形式で行います。

キーワード: 日本語学、英語学、統語論、形態論

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 基本的な統語論の知識を有しており、英文にて統語論のテキストを理解することができる。

評価方法: 輪読 **評価割合:** 50%
プレゼンテーション

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 論理的に自身の考えを構築し、それを他者に伝えることができる。他者の主張に対する批判を適切に行うことができる。

評価方法: 輪読 **評価割合:** 50%
プレゼンテーション

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。授業内で扱った現象に関して、有益な質問・コメント等が認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度により周囲に迷惑が及ぶ場合、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

普段触れる言語表現の中に「なぜ？」と問える力を培います。楽しみながら、知的好奇心を刺激しましょう。

評価割合：普段触れる言語表現の中に「なぜ」

授業計画： 第01回: オリエンテーション
第02回: Scientific Approach to Language
第03回: Rationalism versus Empiricism
第04回: Universal Grammar
第05回: Lexical and Functional Categories
第06回: Discussion [1]
第07回: Syntax: The Core of Grammar
第08回: Generalizing Phrase Structures: X'-Theory
第09回: Reformulating Clause Structures
第10回: Thematic Roles
第11回: Passivization: Case and NP-movement
第12回: Discussion [2]
第13回: Anaphors, Pronominals, and R-Expressions
第14回: Quantifier Scope
第15回: Discussion [3]

使用テキスト： Kishimoto, Hideki (2020) Analyzing Japanese Syntax – A Generative Perspective-, Hitsuji Shobo.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 各回で次回読む範囲を指定しますので、事前に訳しておき、要約をできるように準備しておくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 随時対応します。連絡先は直接お伝えします。Teamsでも対応可能です。

留意事項： 1. 授業時は、必ず辞書(電子辞書可)を持参して下さい。
2. 本授業は、課題提出等をオンライン上で行ってまいります。また、講義のノートはオンライン上の資料をダウンロードしたファイルに、各自持参のデバイスで書き込んでもらうことを推奨しています。その方法については、初回の授業でお伝えします。

科目コード：61041 **科目ナンバリング：**GE51C06K **主な使用言語：**日本語及び英語
授業名(英文)：英語コミュニケーション言語研究E(応用言語学)(English Communication and Language)
担当者：東海林 宏司

基本情報

年次：1 **単位数：**2 **授業形式：**講義
曜時：木曜6限 **履修可能学科・専攻：**GE
関連資格：教職 **AL要素：**10 資料調査課題
11 討論
14 輪読活動

授業の概要： 英語を応用言語学視点でとらえ、日本語や他の言語とも対比しながら、様々な手法による分析やその分析結果の記述について考察していく。

キーワード： 応用言語学、文法、語彙、談話分析、語用論、コーパス言語学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 応用言語学の各分野に関する基礎的な知識を備え、その知識を用いて英語を分析することができる。

評価方法: ・授業での発言・発表
・学期末レポート

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 英語と日本語を含む他言語を応用言語学的観点から比較してその相違について考察し、客観的に記述することができる。

評価方法: ・授業での発言・発表
・学期末レポート

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

応用言語学に関するテキストを主体的に読み、他の参考文献も積極的に探し出すことができる。また、英語や多言語の事例を主体的に見出すことができる。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

授業内で発表したり、レポートや論文を作成したりする際に、引用のルールをしっかりと守ることができる。

評価割合: 20%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 01: Introduction
02: An overview of applied linguistics (1)
03: An overview of applied linguistics (2)
04: Grammar (1)
05: Grammar (2)
06: Vocabulary (1)
07: Vocabulary (2)
08: Discourse Analysis (1)
09: Discourse Analysis (2)
10: Pragmatics (1)
11: Pragmatics (2)
12: Corpus Linguistics (1)
13: Corpus Linguistics (2)
14: Analyses of English through applied linguistics
15: Summary

使用テキスト: Schmitt, N. & Rodgers, M.P.H (ed.) (2000) An Introduction to Applied Linguistics, Third edition, Routledge

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・予習: テキストをしっかりと読んでおくこと
・復習: テキストを読み直し、関連事例を挙げておくこと
・参考文献・資料等: プリントを配付するが、図書館等で積極的に探すことも必要

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: ・オフィスアワーに研究室で対応(曜日・時限等については初回に通知)

- ・メールでの対応(メールアドレスは初回に通知)
- ・オンラインチャットでの対応

留意事項: 言語分析にはPCを利用する。

科目コード: 61053 科目ナンバリング: GE52C07K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 英語コミュニケーション教育研究C(第二言語習得論概)

担当者: 村上 美保子

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜6限

履修可能学科・専攻: GE

関連資格: 教職

AL要素: 発問と回答

授業の概要: 第二言語習得理論研究の分野の中でも、Task-Based Language Teaching (TBLT:タスクをベースとした指導)の基本的な考え方を理解することを狙いとする。TBLTの30年間の歩みを概観し、第二言語習得理論分野の歴史と現在を知る。

キーワード: 第二言語習得、指導法

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 本研究分野の基本的な概念や用語等の知識がある。

評価方法: レジюме

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 本研究分野の基本的な概念や論について、説明することができ、自らの研究課題と結び付けて表現することができる。

評価方法: 期末レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、授業外で執筆をしなくてはならないので、学修に主体的に取り組む態度は必須である。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし論文において、「キリスト教精神(隣人愛)に基づき、英語による諸人生のいとなみに奉仕しようとする」言動がみられる場合は、実践的ボランティアの表出とみなし、上記の「表現力」の評価に付加することがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。ただし、期末レポートにおいて、剽窃等の著しく公正性を欠く行為が見られた場合は、減点等の措置をとる場合がある。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回:第二言語習得理論研究の歴史
第2回:教室内第二言語習得
第3回:Communicative Language Teaching
第4回:インプット理論

- 第5回:アウトプット理論
- 第6回:インタラクション理論
- 第7回:社会文化的視点
- 第8回:スキル習得論
- 第9回:フォーカス・オン・フォーム
- 第10回:教室内言語活動
- 第11回:タスクの定義
- 第12回:TBLT in practice (1) Unfocused task
- 第13回:TBLT in practice (2) Focused Task
- 第14回:TBLT in practice (3) Corrective Feedback and scaffolding
- 第15回:Task evaluation

使用テキスト: Martin East (2021) Foundational Principles of Task-Based Language Teaching. Routledge.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: レジューメ作成は授業外で行い、これが予習にあたる。授業で原文を読み齟齬がないか確認をしながら、自分の論文のどのような論拠として引用できるか考えさせてストックすることが復習に当たる。参考文献・資料等は授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: ICメールで連絡の上、研究室でのオフィス・アワー以外の相談にも対応します。

留意事項: 特になし。

科目コード: 61054 **科目ナンバリング:** GE52C08E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 英語コミュニケーション教育研究D(第二言語習得論演

担当者: 村上 美保子

基本情報

年次: 1 **単位数:** 2 **授業形式:** 演習
曜時: 月曜6限 **履修可能学科・専攻:** GE
関連資格: 教職 **AL要素:** 発問と回答

授業の概要: 前期のTBLTに関する基礎的事項を基に、TBLTを実践している例やそのコンテキスト(国・地域)との関わりについて学ぶ。

キーワード: 第二言語習得、指導法

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 本研究分野で扱われる統計手法の基本的な事項について知識がある。

評価方法: レジューメ **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 自らの研究課題で使用するべき統計処理の方法を利用し、その解釈を記述することができる。

評価方法: 課題分析 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、授業外でも動画を見たりして知識を深める必要があるので、学修に主体的に取り組む態度は必須である。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし論文において、「キリスト教精神(隣人愛)に基づき、英語による諸人生のいとなみに奉仕しようとする」言動がみられる場合は、実践的ボランティアの表出とみなし、上記の

「表現力」の評価に付加することがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。ただし、期末レポートにおいて、剽窃等の著しく公正性を欠く行為が見られた場合は、減点等の措置をとる場合がある。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回:Assessment in Second Language Studies
第2回:Collecting evidence of Linguistic Proficiency
第3回:Communicative Language Testing
第4回:Task-based Language Assessment
第5回:Construct-based assessment
第6回:Micro-evaluation of TBLT Implementation
第7回:Macro-evaluation of TBLT Implementation
第8回:TBLT contexts
第9回:Case study: India
第10回:Case study: Belgium
第11回:Case study: Hong Kong
第12回:Case study: China
第13回:Case study: Japan
第14回:Case study: New Zealand
第15回:Implementing TBLT in English Education in Japan

使用テキスト： Martin East (2021) Foundational Principles of Task-Based Language Teaching. Routledge.

予習・復習のポイントと 授業中に参考文献等は紹介する。

参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応するので、学務部に連絡してください。

履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： ICメールで連絡の上、研究室でのオフィス・アワー以外の相談にも対応します。

留意事項： 前期に『英語コミュニケーション教育研究C(第二言語習得概論)』を履修済みであることを原則とする。

科目コード：61062 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語
授業名(英文)：英語文学・文化研究指導Ⅲ(Research Guidance in English Literature and Culture III)
担当者：菅野 弘久

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜6限

履修可能学科・専攻：GE

関連資格：

AL要素：レポート指導

授業の概要： 修士論文作成のためのサポートを行います。教員は履修学生の研究テーマに沿った資料収集、分析、考察を指導し、学生は教員との議論をとおして論文を作成します。

キーワード： 修士論文、イギリス文学、イギリス文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 意義と方法論を自覚して調査し、また先行研究を十分に理解したうえで自分の研究を位置づけることができる。

評価方法：課題レポート

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：独創的な視点から研究対象を考察し、明快なロジックにもとづいて論を構築できる。

評価方法：課題レポート

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、発展的学修によって得られた知見が課題レポートの記述内容から認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、議論での発言や課題レポートの記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

とくになし。

評価割合：とくになし。

- 授業計画：
- 第1回:David Punter, “Dracula and Taboo” (1)
 - 第2回:David Punter, “Dracula and Taboo” (2)
 - 第3回:Alexandra Warwick, “Dracula and the Late Victorian Gothic Revival” (1)
 - 第4回:Alexandra Warwick, “Dracula and the Late Victorian Gothic Revival” (2)
 - 第5回:Christine Ferguson, “Dracula and the Occult” (1)
 - 第6回:Christine Ferguson, “Dracula and the Occult” (2)
 - 第7回:Matthew Gibson, “Dracula and the East” (1)
 - 第8回:Matthew Gibson, “Dracula and the East” (2)
 - 第9回:Mark Blacklock, “Dracula and New Horror Theory” (1)
 - 第10回:Mark Blacklock, “Dracula and New Horror Theory” (2)
 - 第11回:Alison Peirse, “Dracula on Film 1931-1959” (1)
 - 第12回:Alison Peirse, “Dracula on Film 1931-1959” (2)
 - 第13回:Alison Peirse, “Dracula on Film 1931-1959” (3)
 - 第14回:Stacey Abbott, “Dracula on Film and TV from 1960 to the Present” (1)
 - 第15回:Stacey Abbott, “Dracula on Film and TV from 1960 to the Present” (2)

使用テキスト： Glennis Byron, ed., *Dracula* (St. Martin’s Press, 1999), Roger Luckhurst, ed., *The Cambridge Companion to Dracula* (Cambridge UP, 2018)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 修士論文作成のための指導を目的にするため、授業以外でも主体的に資料の収集し、また先行研究の調査を行うことで、自分の研究について論を組み立てること。教員との議論を十分に重ね、明快な論理展開へ発展させること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 随時IC-Mailにより対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。

留意事項： この授業は基本的に日本語で行いますが、一部英語も使います。

科目コード：61063

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 英語文学・文化研究指導IV(Research Guidance in English Literature and Culture IV)

担当者: 菅野 弘久

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜6限

履修可能学科・専攻: GE

関連資格:

AL要素: レポート指導

授業の概要: 修士論文作成のためのサポートを行います。教員は履修学生の研究テーマに沿った資料収集、分析、考察を指導し、学生は教員との議論をとおして論文を作成します。

キーワード: 修士論文, イギリス文学, イギリス文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 意義と方法論を自覚して調査し、また先行研究を十分に理解したうえで自分の研究を位置づけることができる。

評価方法: 修士論文原稿

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 独創的な視点から研究対象を考察し、明快なロジックにもとづいて論を構築できる。

評価方法: 修士論文原稿

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、発展的学修によって得られた知見が修士論文の記述内容から認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、議論での発言や修士論文の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼その他

とくになし。

評価割合: とくになし。

授業計画: 第1回: 修士論文作成と個別指導(1)
第2回: 修士論文作成と個別指導(2)
第3回: 修士論文作成と個別指導(3)
第4回: 修士論文作成と個別指導(4)
第5回: 修士論文作成と個別指導(5)
第6回: 修士論文作成と個別指導(6)
第7回: 修士論文作成と個別指導(7)
第8回: 修士論文作成と個別指導(8)
第9回: 修士論文作成と個別指導(9)
第10回: 修士論文作成と個別指導(10)
第11回: 修士論文作成と個別指導(11)
第12回: 修士論文作成と個別指導(12)
第13回: 修士論文作成と個別指導(13)
第14回: 修士論文作成と個別指導(14)

第15回:修士論文作成と個別指導(15)

使用テキスト: とくになし。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 修士論文作成のための指導を目的にするため、授業以外でも主体的に資料の収集し、また先行研究の調査を行うことで、自分の研究について論を組み立てること。教員との議論を十分に重ね、明快な論理展開へ発展させること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 随時IC-Mailにより対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。

留意事項: この授業は基本的に日本語で行いますが、一部英語も使います。

科目コード: 61070 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 事前・事後指導は

授業名(英文): 特殊演習A

担当者: 村上 美保子

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 集中講義

履修可能学科・専攻: GE

関連資格: 教職

AL要素: 07. 発表

11. 討論

13. 役割演技と疑似体験

17. 発問と回答

授業の概要: 中等学校もしくは初等学校で英語を教える教員として必要な英語力と、生徒・児童が進んで参加したいと思う授業を行うことができる指導技術を身につける。英語圏のTESOL(英語以外の言語を使用する学習者に対する英語教育)の専門的なプログラムを受講して2週間の集中講座で学び、英語を使って生活する体験をすることでこれを達成する。

キーワード: 英語教育 教員の英語力

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 中等学校の教員として、または、初等学校の教員として、英語指導に必要な英語力および指導力を身につけることができる。

評価方法: 現地の授業での発表、やり取り等によって **評価割合:** 80%
評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について理解し、教壇に立った時の指導について、自らの指導法を考察し、表現することができる。

評価方法: 現地でのマイクロティーチング **評価割合:** 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回目と第15回目はキャンパスにおいて、第2回目～第14回目は、研修先のハワイ・パシフィック大学キャンパスにおいて授業を実施します。プログラムA(主として中等教育教員志望者対象)とプログラムB(主として初等教育教員志望者対象)が同時進行します。最終スケジュールは6月頃に決定される予定ですので、それに沿って適宜事前指導します。

【第1回】事前指導(6月に実施予定)

【第2回】Developing a Philosophy of Language Teaching/英語の発音・会話練習#1

【第3回】Attention& Awareness in Language Classroom/英語の発音・会話練習#2

【第4回】Communication Activities for EFL Learners/クラスルームイングリッシュ#1

【第5回】Culture and English as an International Language/クラスルームイングリッシュ#2

【第6回】Strategies for Teaching Vocabulary/ALTとの打ち合わせに必要な会話練習

【第7回】Teaching English Through English/Small Talk 練習#1

【第8回】Extensive Reading: Helping Students to Become EFL Readers/Small Talk 練習#2

【第9回】Approaches to Teaching Writing/Small Talk 練習#1

【第10回】Motivating Foreign Language/Learners/英語の指導#1

【第11回】Intercultural Communication/英語の指導#2

【第12回】Developing Interactive Competence for EFL Learners/英語の指導#3

【第13回】Using Games to Teach English to Young Learners/マイクロティーチング

【第14回】Wrap-Up Session/まとめ

【第15回】事後指導

使用テキスト： プリントを配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 英語のニュースを聞く、アプリで英会話の練習をするなどして、現地で気後れしないように英語に慣れておきましょう。

日本の中学校、小学校の英語の教科書を購入して、どのような授業が行われているのか、英語で説明できるようにしておきましょう。

障がいのある履修者への対応： できる限り対応しますので、まずは学務部にご連絡ください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項： 当該研修には、この授業を履修する学部学生の外に、本学大学院生、現職の英語教員(小学校、中学校、高等学校)が参加し、英語教育に関する研修を行います。そのため、将来真剣に教職を目指す学生のみが対象となることに留意してください。

研修期間は2023年8月6日～20日の予定で、研修費(渡航費、授業料、宿泊費等)として約70万円の費用を見込んでいます。研修参加費の支払いは5月頃になります。

日本およびハワイのコロナ感染症の状況により、実施が不可となる場合もあります。

質問のある学生は、村上(murakami-m@icc.ac.jp)にメールで質問してください。

科目コード：61072

科目ナンバリング：

主な使用言語：English

授業名(英文)：Academic Communication Skills A (Listening & Speak(Academic Communication Skill

担当者：Yoshiba, David C.

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻：GE

関連資格：教職

AL要素：

07発表
08協同学習
11討論

授業の概要： Three essential skills for verbal communication for graduate students are the ability to follow classes, give presentations, and engage in discussions involving classes, presentation, or exchanges of ideas. This class will focus on many of the mechanics of these skills as they are used in English-language academic environments.

キーワード： Presentation, academic discussion, active listening, active learning

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： Students will learn to understand how to give academic presentations, how to listen to academic presentation, and interact in English-speaking academic situations.

評価方法： Student presentations **評価割合：** 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： Major concepts discussed in this class will be the constructions of discussions and presentations.

評価方法： Student participation in discussions related to student presentations and question and answer sessions **評価割合：** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students will need to be very active in class participation and completion of their work. They will be expected to engage both with the teacher and their classmates with respect to any discussions or presentations. Active listening will be vital for this engagement.

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

As one of the functions of graduate school is to share your knowledge and research with others, students will be encouraged to do so in this class.

評価割合： 0%

▼公正性

Given the nature of this class, special attention must be given to any problems such as plagiarism.

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： Week 1: The importance of presentations and learning from others
Week 2: Writing out your speech: simplify for verbal communication
Week 3: Writing out your speech: word choice
Week 4: Creating your slides
Week 5: How to start a presentation
Week 6: Methodology
Week 7: Visuals in your presentation
Week 8: How to begin a presentation
Week 9: Agenda and transitions
Week 10: Results and discussion
Week 11: Conclusions
Week 12: Questions and answers

Week 13: Delivery
Week 14: Student presentations
Week 15: Student presentations

使用テキスト: Wallwork, A., English for Presentations at International Conference, ISBN 3319263285

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: This class will require considerable preparation by the students as there will be a high level of interaction between each student, as well as with the teacher.

The final presentation in the class will be of particular importance. It is suggested that the students begin their preparation for the final presentation within the first month of the class.

障がいのある履修者への対応:

The teacher will endeavor to assist any student with disabilities as far as is appropriate for the class. Any disabilities or difficulties should be reported to the student affairs office. Students may feel free, if they choose, to discuss any problems directly with the teacher.

授業時間外の連絡手段: Students may contact the teacher through university email at dcy@icc.ac.jp or by visiting his office in the Shion Building. It is suggested that students get an appointment before visiting the teacher's office. Office hours will be available on UNIPA.

留意事項: The class size will be small due to the nature of the graduate school. Students will be expected to participate very actively. This class may be offered online according to graduate student requirements.

科目コード: 61073 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** English
授業名(英文): Academic Communication Skills B (Reading & Writing)(Academic Communication Skill
担当者: Yoshiba, David C.

基本情報

年次: 1	単位数: 2	授業形式: 演習
曜時: 月曜5限		履修可能学科・専攻: GE
関連資格: 教職		AL要素: 07発表 08協同学習 10資料調査課題 11討論

授業の概要:

特例期間中の授業形態:遠隔授業(同時双方型)
Being able to accurately write and do research in the target language is a hallmark of a serious graduate student in English. This class will put emphasis on increasing student abilities to not only read research in English, but to write their own research in accurate academic English. Emphasis will particularly be placed on the mechanics of write clear academic research papers in English.

キーワード: Academic English, conducting research, research writing, writing academic papers, peer editing

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Learning the mechanics and structure of writing Academic English for graduate-level studies. Reading academic research in English.

評価方法: Students will write reports in academic format on topics related to their own **評価割合:** 70%

research topic.

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Learning the construction of argument and research paper structure and mechanics.

評価方法: Students will apply their understanding by peer-editing their classmate's writing. **評価割合:** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students will need to be very active in class participation and completion of their work. They are encouraged to begin the research for their writing during summer vacation before the beginning of the course. (See below.)

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

As one of the functions of graduate school is to share your knowledge and research with others, students will be encouraged to do so in this class.

評価割合: 0%

▼公正性

Given the nature of this class, special attention must be given to any problems such as plagiarism.

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- Week 1: Punctuation, word order, and word selection
- Week 2: Paragraph construction and structure
- Week 3: Linking ideas and argument structure
- Week 4: Describing and outlining
- Week 5: Being concise 1
- Week 6: Being concise 2
- Week 7: Avoiding ambiguity
- Week 8: Paraphrasing
- Week 9: Citation and plagiarism
- Week 10: Defining
- Week 11: Comparing
- Week 12: Evaluating
- Week 13: Predicting your audience
- Week 14: Combining sections of a research paper 1
- Week 15: Combining sections of a research paper 2

使用テキスト: Wallwork, A., English for Academic Research: Writing Exercises, ISBN 9781461442974

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: As the topics the students will write about are connected with their own research topic, it is advised that the students begin gathering the materials for their reports during the summer vacation before the class begins.

障がいのある履修者への対応:

The teacher will endeavor to assist any student with disabilities as far as is appropriate for the class. Any disabilities or difficulties should be reported to the student affairs office. Students may feel free, if they choose, to discuss any problems directly with the teacher.

授業時間外の連絡手段:

Students are encouraged to talk to the teacher directly when possible. When it is not

possible, students should contact the teacher through the university email system.

留意事項： The class size will be small due to the nature of the graduate school. Students will be expected to participate very actively. As this class is part of the graduate school, it may be offered online depending on student needs.
